群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

No. 1

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
			①	②	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は90%以上である。	A	A	A	コロナ禍の中、工夫をすることで、可能な範囲でこれまでどおりの行事等を行った。	・自校を愛する生徒が9割以上というのは、素晴らしい数字だと思います。 ・目標を達成できているので、引き続き充実した取り組みを行ってください。	生徒が本校に誇りを持てるような取組を継続していきたい。	
		② 「探究基礎」(1年)、「科学探究Ⅰ」「探究総合」(2年)、「科学探究Ⅱ」(3年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	A	A	A	上級生や外部の指導者による指導助言を踏まえつつ、実証的な研究を行うことができる生徒が増えてきた。	・1年生に比べ、2、3年生で探究科目の「そう思う」が約半分に低下していることが気になります。原因はお判りでしょうか。 ・SSHの活動等も軌道に乗ってきたようですね。 ・③講演会は良い企画ですが、年2回の講師依頼は大変ではないでしょうか。 ・③講演会は満足度も高く今後も継続して欲しい。 ・④コロナ禍でのOxbridge研修がどのように実施されているか、気になります。	学年ごとの課題研究のねらいを明確に示して活動へのマンネリ化を防止し、自己の成長を感じさせる指導を引き続き行っていきたい。	
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。	A	A	A	年2回の講演会を実施した。オンラインでの講演会や生徒参加のパネルディスカッション等新しい試みを行うことができた。	・④コロナ禍でのOxbridge研修がどのように実施されているか、気になります。	適切な時期に講演会を開催し、イノベータとしての資質である「質問力」の育成を図りたい。	
		④ Oxbridge研修やその報告会およびその他のグローバル教育に関する活動を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	B	B	B	「Gunma Youth Leader Program」「前高Oxbridge研修 Online」「サイエンスダイアログ」「海外の高校とのオンラインによる交流会」を通じてグローバル教育の推進を図った。	・④現在の社会状況ではICTを活用したオンラインでの実施を検討して見てみたいと思います。	対面での国際交流実施の可能性を探りながら引き続き代替行事を企画したい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 55分となった授業が工夫されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	A	A	A	年間2回の授業アンケートが職員個々にフィードバックされ、授業改善を学校として進めてきた。	・55分授業はすっかり定着したようですね。 ・先生方の努力によって、満足度が高くなっていると感じています。	授業の工夫にさらに取り組むことで、生徒の授業への満足度を向上させるとともに、力をつけさせたい。	
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	A	A	A	少人数を生かした指導を、授業改善と合わせて実施してきた。	・少人数・習熟度別の授業は他教科でも有効ですが、効率や費用の問題がありますね。	学年内の学力差が大きくなっていることから、これまで以上に有効に活用する方策を検討したい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	B	B	B	生徒の主体性を生かした授業がいくつかの教科で実践され、職員に公開された。	・主体性をどのように引き出していくのか、大きな課題だと思います。生徒・学生は体系的にきっちり組まれた授業を良い授業と評価する傾向がありますが、多少ファジーでも生徒主体の授業の方が学びは大きいと思います。	教科(担当者)によって差が出ているところもあるため、学校全体としてさらに取組を図りたい。	
		② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科でも実施している。	B	B	B	年間2回、授業改善に関する研修を行い、新しい学びの実践例を紹介した。また、授業改善に関わる実践授業について共有した。	・「学力」に関する評価は学内外ともに低めですが、これはトップ校ゆえに評価基準が厳しくなっているためだと思います。 ・③取り組みの趣旨を理解することは必須と思う。 ・③土曜日も学校で学習できることがありがたい。 ・④受験と全く切り離して考えることが必要だと思います。(難しいですが) ・④どの教科でも授業におけるコミュニケーションの場面はありますが、なぜ特に英語科なのかという点を生徒に理解させると効果が上がると思われます。 ・⑤教科によって探究のサイクルをアレンジし、教科特性を踏まえたものへと見直すのもいいと思う。	クロームブックの活用による探究的な学び合い実施する授業方法や、観点別学習状況の評価方法など職員間の共有化を深めるために研修を引き続き行う。 学校での講義や課題研究に取り組みず、自宅での学習を選んだ生徒の充実度を上げるための方策を講じたい。	
		③ 「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もうとした生徒が70%以上である。(1・2年のみ)	B	B	B	学年の先生方の指導により、昨年度と比較して1年生の参加が増加した。講義や課題研究に取り組むことができた生徒の満足度は高かった。		生徒の相互評価を取り入れるなど評価方法をより工夫し、成長を実感できるようにしたい。	
		④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	B	A	B	ALTと連携して授業内に実践的なコミュニケーションの場面を多く設定した。		ICERूपブリック評価を用いた授業の実践を通して、生徒がより探究的な学びを行う意識を養う中で学習内容を理解させていく。	
		⑤ 各教科・科目で「探究的な学び」を取り入れた授業を行い、学習内容がより深く理解できたと感じる生徒が80%以上である。	B	B	B	アンケートではポジティブな回答をした生徒が全体の80%弱であった。		特に3年生については学習の構築方法について情報を提供したい。	
	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	B	B	B	3年生の秋時点で平日に4時間程度の家庭学習はなされているが、平均で設定の時間には届いていない。	・①コロナ時(リモート授業、分散登校など)の自宅学習を測る指標があってもよいと思います。 ・①「質」の視点から、生徒に「量」を考えさせても良いと思います。	今後も感染症対策徹底しながら、県の方針に則って活用を促していきたい。	
		② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。	B	B	B	新型コロナウイルス感染症に対して、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置があり、活動が制約された。	・②この項目については、現在の状況では、仕方がないと思います。 ・②ICTの活用がうまくできると良いと思います。		
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	B	B	B	学年会議・教育相談係会議においては、授業内に設定できるので、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っているが、生徒指導部会議は難しい状況である。	・生徒の学校生活の充実ぶりやそれに関するご指導については、コロナの状況下でも、十分に満足できるものだと思います。 ・外部アンケート等の評価が「A」であり、改善策を実施できているのであれば、自己評価を「A」にしても良いと思います。	生徒指導部会議においては、今年度と変わらないと思われるので、最低限月1回程度の定期的な会議の設定が望まれる。
			② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	A	A	A	校内においては、挨拶がしっかり出来ていて、外部からの来客にも好評である。	・項目7本人のポテンシャル(学習時間を長くしないと授業についていけない等)に合わせた部活動ができる環境は整っているでしょうか。すべての部員が同じ量、同じ時間練習するのではなく、個人のニーズに合わせた部活動ができると良いと思います。 ・項目7アンケート結果から学校生活の充実が分かります。勉強と部活動に目標を立てて頑張っていると思います。	今年度同様、学年職員による生徒玄関での登校指導を引き続き行い、遅刻防止に取り組む。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。	A	A	A	欠席状況は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため出席停止扱いとなり把握が難しかった。遅刻者は学年と協力し指導していく。		大半の生徒は、校内においても大変よく挨拶をしている。遅刻間際の生徒に対して、始業5分前登校を促す指導を行う。
② 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。			A	B	A	入部前に実際の活動を見る時間が少なかつたにもかかわらず、新入生の加入率は95%、延べ人数では100%を上回った。		入部前の見学期間を延ばすなど入部を検討する時間を十分に設けられるように工夫し、入部率を高める。	
③ 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じる生徒が90%以上である。			A	B	B	大会や発表会は概ね開催できたが、十分な準備ができずに満足な結果を残すことができなかつた生徒が多かつたようである。		制約のある中でであっても、充実した部活動を実践することで、大会結果等にかかわらず満足できる活動をめざしていきたい。	
④ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。			A	B	B	生徒アンケートにおける評価が低いのは、生徒がより高い目標を掲げている影響であると考えられる。		生徒自身が自己肯定感を得られるように、学習と部活動のバランスのとれた指導を、担任や教科担当者、部顧問に促す。	
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。		① 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	A	A	A	制約はあったものの3大行事(定期戦・優曇華・蛟龍祭)を開催できたことは大きな成果であった。実行委員・職員の協力体制が整っていた結果であると考え		異例の2年連続開催となる文化祭を、経験を活かしつつ指導し、成功へ導くことで、他行事への意欲を高める手立てとしたい。	

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

No. 2

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
			①	②	総合				
	8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80%以上である。	B	B	B	入学の手引きに掲載したり、年度当初に利用ルールを各教室に掲示しているが、入学時にすでにスマホを持っている生徒も多くなるなど、状況が変化して教育相談の先生方を中心に、学年団の協力の下、いじめ防止については確実に実施できていると考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・8①「スマホ利用ルール」と「いじめ防止フォーラム」の関係がよくわかりませんでした。 ・8①スマホ絡みの問題は見えにくいので、いじめ防止フォーラムのような、生徒主体の取組は有効だと思う。 ・8②一般校に比べると、いじめ問題は少なめかも。 ・9：一人あたりの年間貸出冊数はどのくらいですか。 ・9：電子書籍の活用を推進しても良いと思います。 ・9：自ら購入すること等、読書活動を多面的に見ては ・9：生徒が読書に興味を持つように工夫してほしい。 	現在の生徒の利用実態を把握し、利用ルールの変更も検討していく時期に来ていると思われるため生徒会本部役員と調整を行う。	
		② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90%以上である。	A	B	B				いじめ防止に向けた取り組みをLHR計画に取り入れ、主体的な活動を行う。
	9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	B	B	B	本年も図書の貸し出し数が伸び悩んだ。図書委員会の活動や図書館の催事が不活発であったことが一つの要因となっている。	学校関係評価にあるよう、読書に興味を持てる工夫を図書委員会で検討する。また電子図書の導入も考えたい。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。	A	A	A	およそ90%の生徒が参考になると認識している。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関するご指導は満足できるものです。 ・本人の適性をしっかり、確実に捉えて進路指導を行っていただきたいです。勉強ができるだけで医師になれる時代はとくに終わっています。適性のない学生が医学部に入っても、学生が苦しむだけです。 ・③インターンシップで苦勞しているのは、大学でも同じです。 ・③リモートでのオンライン開催はどうですか。 ・③将来の職業を考えての学部選びができていない生徒が多いと思います。 	今年度の経験を活かして適切な時期に生徒の関心の高まる指導となるよう洗練したい。	
		② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	A	A	A	90%以上の生徒が役に立つと感じている。			引き続き、生徒や保護者に情報提供していきたい。
		③ 大学・企業・研究所研修、インターンシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。	B	B	B	1年生の大学・企業・研究所等の研修はオンラインで実施された。外部と関わる研修はオンラインが主流であったが生徒はおよそ80が満足している。			状況を見ながらオンラインでの実施も視野に入れつつ、状況が許せば現地対面の行事を増やしていきたい。
11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		① 早朝補習や長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	平常時の補習はおよそ90%の生徒が役立っていると感じている。長期休業中の補習は80%以上の生徒が役立っていると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、コロナを見ながらの難しい対応になってきますね。 ・コロナ禍においても実施できる手段を検討できると良いと思います。 	コロナ禍における実施についても臨機応変に対応していきたい。	
		② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。	—	—	—	3年生については代替行事として、夏季集中学習会を開催した。参加した生徒には好評だった。			本校での学習合宿の指導経験のある教員が少しずつ減少している。コロナが終息した後の展開を考えたい。
		③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	未	未	未	担任と生徒との面談が綿密に行われた。高い進路目標を掲げ挑戦する生徒が多くみられた。			情報交換会、志望校検討会などを通して方向性の確認や指導方法の共有を図ってきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高Web page」の内容について、満足している保護者が90%以上である。	B	B	B	部活動のページなどが更新しやすいうちに起案方法などを変更した。	<ul style="list-style-type: none"> ・①私立の学校ではないので、学校のサイトに関する満足度は、そこまで重視しなくても良いと思います。 ・①保護者がどんな内容を求めているかリサーチしてもよいと思われます。 ・②「学年通信」は教職員が執筆しているものですか？それとも生徒や保護者も執筆しているのですか。 ・男子は親に話さないことが多いので継続して欲しい。 	保護者に定期的に見てもらえるよう呼びかけを行い、内容を工夫したい。	
		② 学校通信「前高通信」などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90%以上である。	A	A	A	各学年が作成する学年通信は、生徒の様々な活動を紹介するなど精力的に発行された。			コロナ禍で行事等が制限されているが、積極的に発行に取り組みたい。
	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	B	B	B	講演会が中止またはオンライン開催となったものが多く、正当な評価ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の状況では、よくやられていると思います。 ・できることを工夫して行うことが大事だと思います。 	P T A活動だけでなく、SSHやその他学校の教育活動でも地域や保護者を講師として推薦したい。	
	14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	A	A	A	外部からの交通に関する苦情は2件であり、昨年度14件から比較すると減少した。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の自転車事故は、減少傾向にあったのでしょうか？ 	自転車事故25件。加害者側に取られる事故も発生している。交通安全教室だけでなく、情報を常に更新し危機意識を高める。	
		② 安心・安全な自転車利用のためには、自転車保険の加入やヘルメット着用が必要であると自覚している生徒が90%以上である。	A	A	A	自転車ヘルメット着用率は1年生で79%であった。交通事故件数については25件（R2年度27件）。一人1台パソコンを利用し、注意喚起を行っていく。			「身を守るための行動」としての着用を指導していく。自発的な行動としての取り組みを行う。
	15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 災害発生時に適切な行動をとることができると自覚している生徒が90%以上である。	A	A	A	2回の防災訓練の中で、地震と火災時の対応を行い、生徒の防災意識も高く、様々な災害時や状況に応じた行動も適切にできている。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に実施されていると思います。 ・群馬は災害が少ない地域ではありますが、今後も生徒への指導をお願いいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災だけでなく、水害対策の防災意識も引き続き指導していきたい。 	
VI 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	A	A	B	保健だより等を利用し、新型コロナウイルス感染防止対策を行い、昼食時にもマスク無しで会話等がないよう呼びかけた	<ul style="list-style-type: none"> ・これは、いま最も重要な点なので、引き続きよろしくお願ひいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防対策も含め、感染症予防に対して継続して、職員・生徒全体で対応していきたい 	
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	17 ICTを活用した指導を行っていますか	① 授業等でICTを活用した指導を行っている教員が80%以上である。	A	B	A	一人一台端末（クロームブック）の授業における活用を検討してきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・この1、2年で、教師側も生徒側もICTの活用能力が急速に上がったのではないのでしょうか。 	一斉接続の状況が改善されたので、授業へのクロームブックの利用を増やしていきたい。	
	18 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	① ICTを活用することで、分掌業務等の改善を進めている教員が80%以上である。	A	A	A	アンケート等でgoogleフォームを利用するなど、少しずつ改善が進められた。		今後もさらにICTの利用を進め、業務改善を図りたい。	